

あなたがここにいるから・・・

「雑感」校長のひといごと・・・

小学校時代の私は、学校から帰ると毎日のように近所の公園に出かけていました。商売を営んでいた自宅では、両親や従業員さんが働いており、ゲームやスマホなど、家の中で楽しめるものなどなかった時代でしたから、帰宅後は家の外で過ごすことが日常でした。

公園では、学年が上のお兄さん、お姉さんから小学校に入る前の子まで、年齢や性別関係なく、みんなで野球や鬼ごっこをしたり、いろいろな話をしたりして、それぞれの夕食の時刻まで過ごしていたことを思い出します。

年上のお兄さんやお姉さんからは、いろいろなことを教わり、そうして学んだことを、今度は自分よりも小さい子に自慢げに教えました。遊びで負けて悔しかったり、きつく言われて泣いたりといった悲しい思い出もありますが、そうした異年齢集団での触れ合いが、幼少期の私を大きく成長させてくれたのだと、この年になって懐かしく感じています。

社会や家族のあり方、生活環境が大きく変化した今、一般的にそうした経験を積むことも難しくなっているような気がします。

しかし、雪小では、それが日常です。

昼休み、子供と運動場で遊んでいると、学年関係なくいろいろな子が、「入れて！」と仲間に入ってきます。すでに遊んでいた

子も、当たり前のように受け入れます。いつものまにか、そんな集団が運動場に行くのもできあがり、それぞれに遊びを楽しんでいます。私の子供時代と全く同じ光景です。（ただ、私の子供時代は、「入れて！」ではなく、「かっちえてー！」でしたが…。）



週に一度、木曜日には、「全員遊び」が催されます。企画の中心となるのは、6年生と5年生。1年生から6年生までみんなが楽しめる遊びを考え、ルールを説明し、運営します。話を聞かない子やルールを守らない子には言って聞かせ、遊びの中で泣き出した子、転んだ子にはそっと寄り添います。私の子供時代と全く同じ光景です。

さて、本通信でたびたびお伝えしていることですが、赴任以来、「雪小の子は、なんでこんなに子供らしく、素直なんだろう」といつも考えています。

こうして学年性別関係なく集い、交わる日常の学校生活も、その大きな要因ではないかと思っています。

雪小の自慢の一つです。（※裏面に続く）

(※表面から続く)

こうして引き継がれる！

関連した内容をもう一つ。

本校自慢の取組の一つに、「縦割り班」活動があります。



全校児童37名を縦に大きく3班に分け、学習や遊び、読み語りや掃除などに取り組みます。

運動会でも、赤青黄、それぞれにチームとして活動しました。

学年の枠を飛び越えた学習や遊びを通して、上学年下学年それぞれに経験を重ね、多くのことを学んでいきます。

中心となってお世話をする各班の班長は、下学年の子にとっては、いわば憧れの存在ですが、責任も重大、たいへんな役割です。今年4月から、6年生3名がそれぞれ班長として各班を導いてきました。

3学期が始まり、先日、新たな縦割り班の結団式が行われました。

今回から各班をまとめる班長は、6年生から5年生に引き継がれました。



結団式が始まり、新たに班長となった3人は、緊張の面持ちです。

これまでは、頼りがいのある3人の6年生に安心して任せていたのですが、新たに班長となった5年生3人を見つめる高学年担任の大淵先生も、少しドキドキしている様子です。

そして大淵先生と同様に、新班長に熱い視線を注ぐ存在に気づきました。

それは、3人の6年生です。

各班に分かれての話合いでは、新班長のリーダーシップに委ねながらも、しっかりと寄り添い、必要に応じて助言する姿が見られました。そんな力強い支援を受け、新班長から緊張の色が消え、少しずつ力強いリーダーの表情へと変わってきています。



結団式が終わり、「新班長は、どうでしたか？」と6年生に尋ねました。

6年生からは、「よかったです。がんばってました。」との回答。

「卒業まで、しっかりと支えてくださいね。」とお願いすると、「はいっ！」と力強い返事。

雪小の伝統は、こうしてしっかりと引き継がれています。

そして、次なる年度、令和5年度の雪小の姿が少しずつ見えてきました。

(文責 校長)